ITMS（透過型地図情報システム）のご提案

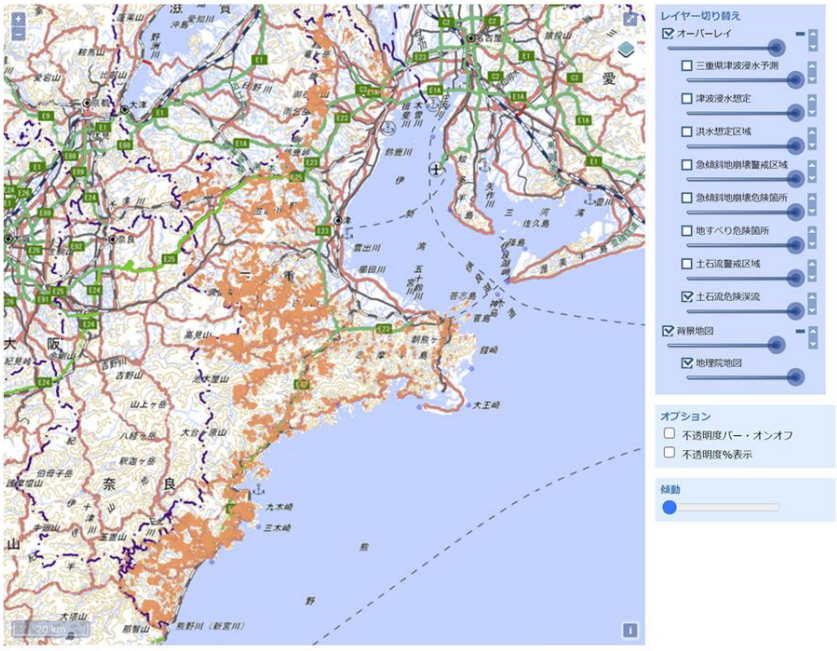
Information Transparent MappingSystem

◆ 災害に備えるための地図情報のDX化

・温暖化で多発する集中豪雨、地震・火山活動など、日本全国どこでも災害の発生する危険性が高まっています。

・災害を未然に防ぐには、
①住民が自分の住む土地の災害リスクを理解できること、
②災害発生時の速やかな対応ができること。
③地域における地図情報のDX化は喫緊の課題です。

◆ オープンデータの利活用による防災分野でのDX改革



・ITMSは様々なオープンデータを活用

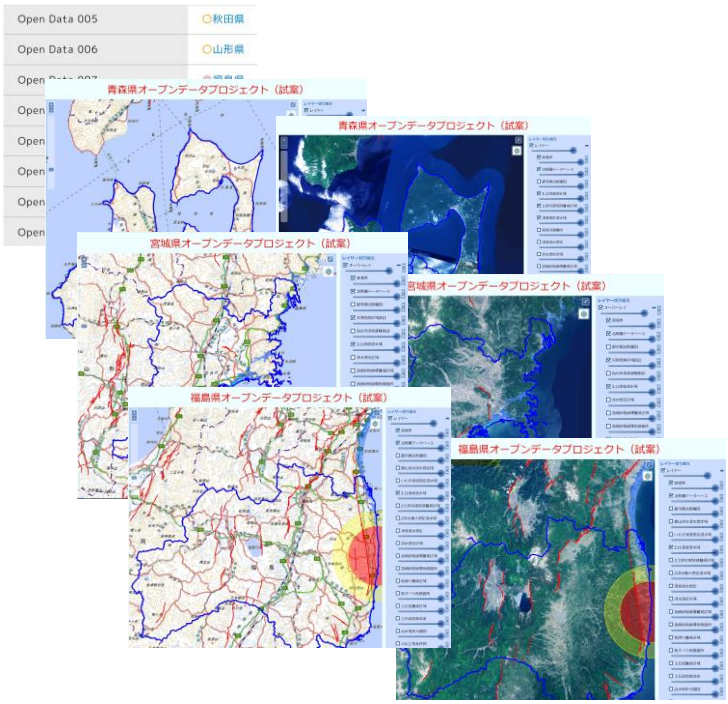
・画面上で自由に、透過度を調整して、重合できる「透過型地図情報システム」

・24時間、365日どこからでも、PC、タブレット、スマホからアクセス可能

ITMS（透過型地図情報システム）の画面

・ITMSの活用で、住民の方にわかりやすく地域の危険度を認知していただくことや、地図情報の一元化により自治体の方には担当地域の特異性を把握し、災害に備える情報や災害発生時の素早い対応が可能となります。

◆ ITMS「透過型地図情報システム」とは



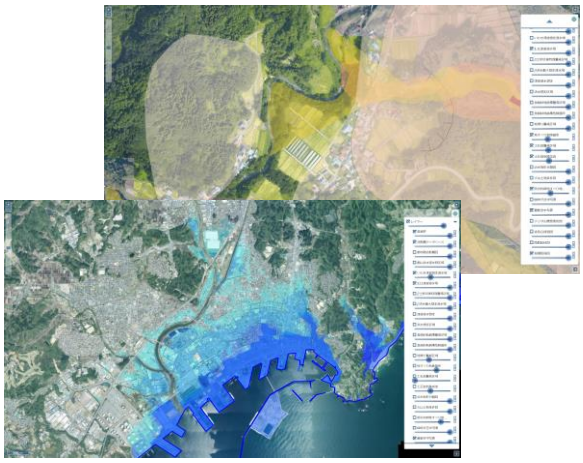
現状と課題）
・国や自治体が公開している地図情報は個別に閲覧できる
・複数の地図の相互の関係を見るには工夫が必要

ITMS）
土地の履歴や災害リスクの「見える化」システム
①複数の地図レイヤを作成
②必要な項目をチェック重合
③スライドバーで透過表示

◆ ITMSの活用例

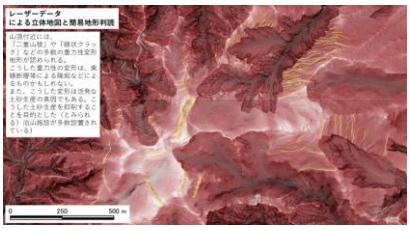
・画面は航空写真上に、土砂災害危険地域と津波想定浸水域を表示したもの

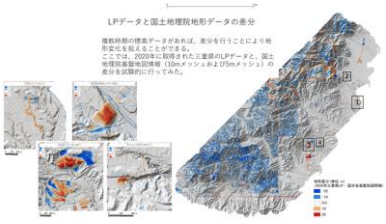
①地図上で被害想定情報を場所を変え、自由に拡大・縮小しながら確認可能
②避難所や他の行政災害情報を追加・更新することが可能
③災害を予測・避難するのための資料



◆ ITMS地図情報の解析による危険度診断

ITMSでは、ご要望に応じて特定地域の地図情報から学術的知見と実績により解析し、その地区の危険度の診断も実施可能です。





ITMSの詳しい資料やシステムの説明をご希望の方は下記連絡先にお問い合わせください。
ITMSの体験ができるWABサイトhttp://dxop.jpを御覧ください。

開発元

STORY
UNIVERCITY JOINT VENTURE

大阪市立大学発ベンチャー企業

業務内容
- UAVレーザ計測/解析/図化
- 沿岸/河川/斜面/遺跡の地形画像診断
- 地形・地質診断のセカンドオピニオン

- 人々が暮らす沿岸・河川・山麓斜面域の地形を詳細に計測することで、そこに潜むハザードの可視化と診断を行います。
- 地域に合った処方箋を提案し、自然災害から人々の暮らしを護り、安全で豊かな国土づくりに寄与することが私たちの目標です。
- 岩松暉鹿児島大名誉教授を技術顧問に迎え、学術的な視点からの支援体制も確立。

代表取締役　原口 強
（大阪市立大学）

製品に関するお問い合わせは

TPホールディングス株式会社

〒562-0035 大阪府箕面市船場東1-2-20 ウオールマンビル5F
tel ： 072 (729) 2690 (代)　fax ： 072 (729) 2695
web-site ： https：//www.tphd.co.jp